

農と食の課題先進地で学ぶ

福島大学食農科学研究科修士課程（案）

設置申請中

農と食をめぐる大変革

「自然資本」に基づく持続可能性
データ駆動型農業イノベーション
幅広く健康をとらえるOne Health
高齢化、人口減少

福島が先進となる課題

東日本大震災、原子力災害
気候変動、生物多様性
健康寿命
農林水産業の担い手不足

新研究科で解決

自然と調和した生活
食料の安定供給
健康で豊かな食
持続可能な地域社会

定員20名：4つのコースと1つの専門高度化プログラムで農と食に関わる高度専門職業人を養成

食品科学

- ・農場－食卓－健康軸の科学
- ・伝統技術と先端計測・分析化学

農業生産科学

- ・データに基づく栽培の革新
- ・災害多発時代の頑健な農業

生産環境科学

- ・生態系サービスの活用による高いレジリエンス
- ・「つながり」の視点で森林と農地の利用を再生

農業経営科学

- ・データサイエンスとフィールドワーク
- ・生産から消費までをつなぐ対話と議論

持続可能で健康的な食を人々に供給するために、農林水産業と食料・食品関連産業の発展に貢献する科学技術や社会システムについて基盤研究と応用理論の構築を行うとともに、食農科学各分野の専門性を持ち、同時に学際性志向も兼ね備え、地域の課題を抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ高度専門職業人・研究者を養成する。

全国初「ギャップイヤー」「アグロエコロジープログラム」

	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
4月入学	修士1年		修士2年			
学部からの進学	座学 実験計画	修論調査	座学 データ解析	修論発表	就職	
社会人秋入学		修士1年		修士2年		
農業者も含む 早期修了者にも対応	(社会人)	座学 実験計画	修論調査	座学 データ解析	修論発表	復職
ギャップイヤー進学		修士1年		修士2年		
(内部進学特別選抜)	ギャップ イヤー	座学 実験計画	修論調査	座学、インター ンシップ	修論発表	就職、インター ンシップ

この構想は2022年3月時点のものです。予定のものであり今後の検討により変更になる場合があります。

カリキュラムの特徴

設置申請中

食農学類 (学部)

社会人・他大学

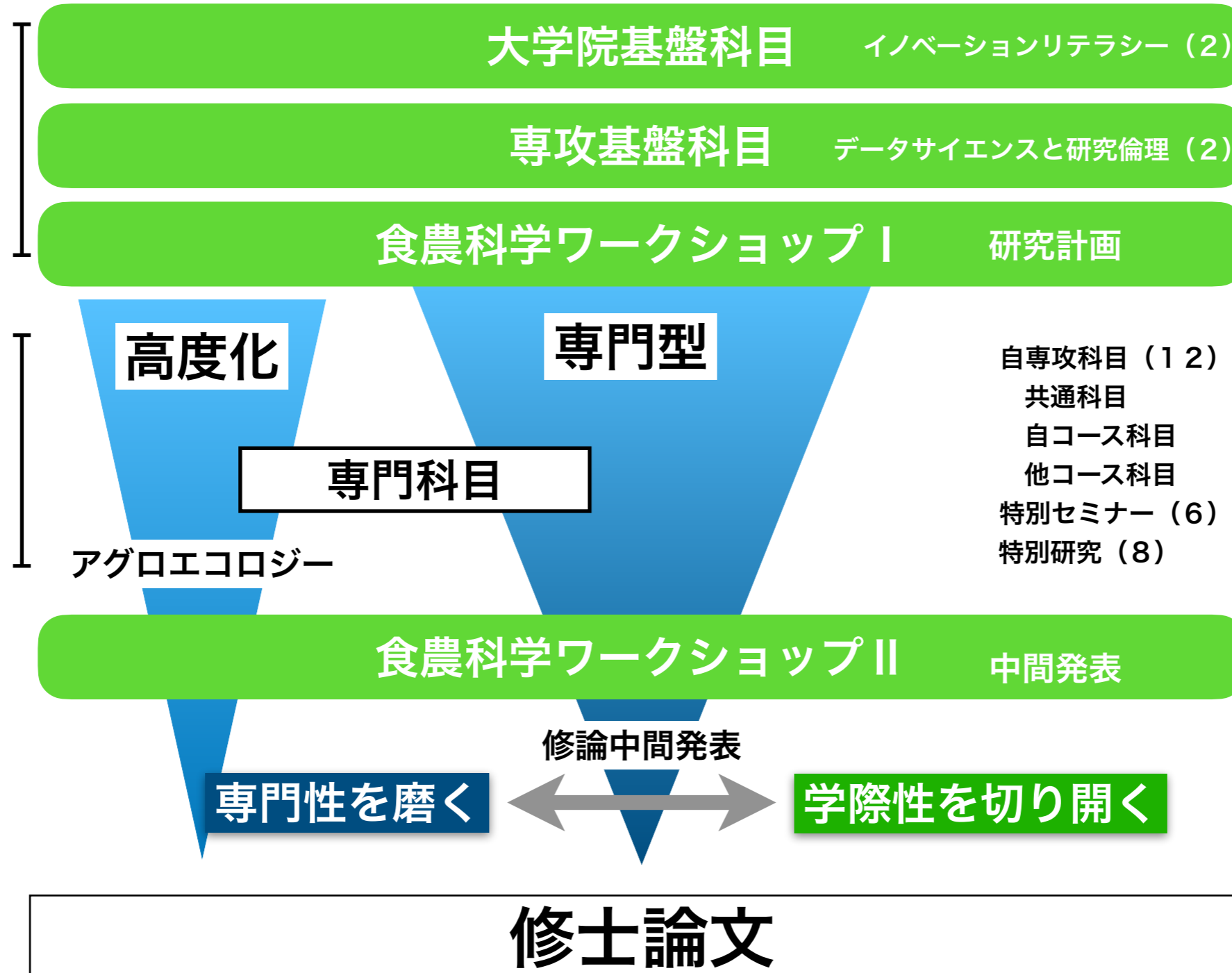
社会人リカレントに対応 (遠隔、オンデマンド、秋入学など)

食農科学研究科 (定員20名)

社会の激動に対応し、問題を俯瞰的に捉えるための科目

先端科目群で幅広い分野の最先端の専門研究を学びつつ、自らの専門分野を究める

食品科学
農業生産科学
生産環境科学
農業経営科学



自専攻科目 (12)
共通科目
自コース科目
他コース科目
特別セミナー (6)
特別研究 (8)

複数指導体制
主指導
副指導2名

社会人リカレントにも対応した 多様な入学機会と教育体制

設置申請中

	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
4月入学	修士1年		修士2年				
学部からの進学	座学 実験計画	修士研究	修士研究	修論発表	就職		
社会人秋入学		修士1年		修士2年			
農業者も含む 早期修了者にも対応	(社会人)	座学 実験計画	修士研究	座学 データ解析	修論発表	(復職)	
ギャップ イヤー進学	修士1年			修士2年			
(内部進学特別選 抜)	ギャップ イヤー1	座学 実験計画	修士研究	修士研究	修論発表	ギャップ イヤー2	就職
2月後半から 渡航も可能	修士1年		長期履修制度を活用		修士2年		
	座学 実験計画	修士研究	ギャップイヤー		修士研究	修論発表	就職
			海外留学、インター ンシップなど				

この構想は2022年3月時点のものです。予定のものであり今後の検討により変更になる場合があります。

福島大学大学院食農科学研究科（仮称） アグロエコロジー・プログラム

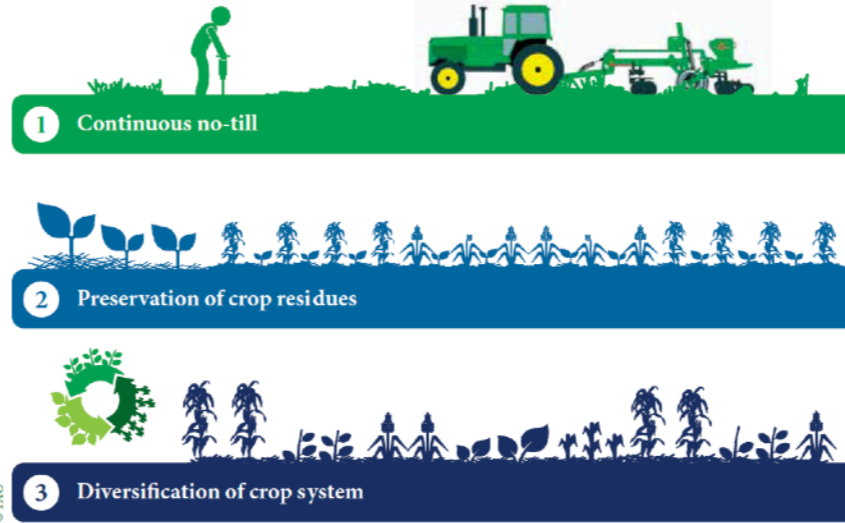


保全農法

不耕起、有機物マルチ、輪作

設置申請中

- 世界で1億8000万ヘクタール（2015/16年）
- 耕地面積の12.5%
- 年間1000万ヘクタールのペースで増加



土壌生物多様性の増大

生産コストの劇的な削減

課題

健康な土壌の持つ機能の解明
気候変動に強い栽培体系、品種改良
病虫害の少ない栽培体系、品種改良
農業による環境負荷の低減（カーボンニュートラル）
新たな食と農の担い手（フードシステムの再構築）
安心安全な食と農の実践
農業における自然エネルギー利用

有機農業への
無理のない転換